

I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立むつ養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	お楽しみ会をしよう		
	単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学期の学習を振り返り、お互いのがんばりを称えたり、楽しく思い出す気持ちを表現したりする。 ・ 会の流れがわかり、活動内容や自分の係を行おうとする。 		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	4 年 5 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心を寄せている活動には注目して取り組む。 ・ 集団での学習では一定時間みんなと一緒に取り組むことができるようになってきたが、実態により集中できる時間や理解度に差がある。 		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	電子黒板、AppleTV、タブレット端末、VOCA		
	使用したアプリケーションの名称	マイクロソフト PowerPoint		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ AppleTV を使い Wi-Fi 経由で児童の手元のタブレット PC の進行表を電子黒板に投影し、全員が視覚的情報を手掛かりに会の進行状況を理解できるようにする。 ・ VOCA を活用し、発声言語の少ない児童も司会を担当できるようにする。 		
活用の状況と支援	<p>○活用場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動（お楽しみ会） <p>○行った支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会の進行に合わせて、進行表や活動内容を表したイラスト・画像をプレゼンテーションに入れることで、スライドを見て活動内容の進行が分かるようにした。 ・ 表出言語のない児童が音声録音した VOCA を用いることで言語での司会を担当できるようにした。 <p>○児童の様子・変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションのスライドを既習内容のイラスト・画像を用いて作成したことで、既習経験を活かして速やかに活動に取りかかる様子が見られた。 ・ 視覚的支援により学習内容の理解や達成に向けた見通しを全児童が共有することができた。それぞれの児童が実態に合わせて機器を操作できるように、補助具等の工夫をして様々な学習場面で活用できるようにしたい。 <p>▲タブレット PC は携帯して操作できる反面、教師自身がタッチパネル操作になじまず、ノート PC を有線でつなげて行う場合も多い現状がある。</p>			